

1. 第2回レポート
2. 割り当てられた問題の大きな例1と2の、それぞれ設問の1つずつを選び、回答を求める。またその間に、検索の経緯、情報源の評価等を行う。
3. 内容

1 (設問7)

スポーツセンターでラップスイマーをやっているが、ハツカネズミみたいな単純な運動にあきあきしている。静岡市の近隣に古式泳法を教えてくれるところはないだろうか。出来ればそのどのような流派があるかも知りたい。

回答

まず、googleのand検索により「静岡市・古式泳法」で検索してみる。

「新・静岡県の心霊スポット」と「火だるまGの4+18手」という2つのサイトの検索結果が出る。

のサイトは掲示板であり、「古式泳法」はその中で使われている名前であった。「静岡市」は掲示板に書かれた内容に出てきたものである。そもそも、回答に沿うものではなかったため、情報源の評価に至らなかった。

のサイトは個人サイトであり、検索に使ったキーワードも、会話の流れで出てきたものであった。作成者の名前、連絡先はあらず、サイトの目的も不鮮明であるため、情報源の評価としては「ずさん」とし、回答は得られなかった。

次に、and検索で「静岡・古式泳法」と入れてみた。先ほどよりも多く検索結果が出る。その中で「関西おもしろ文化考」というウェブにアクセスしてみる。シンクロナイズド・スイミングについて言及した内容であった。直接に解答の得られるものではなく、「シンクロは立ち泳ぎという古式泳法と共通している」と書いてあった。また、このサイトは「読売新聞大阪本社」のものであり、評価は良いのだが静岡とは関係がなく、静岡から有名選手が出た、というだけのものであったため、回答には繋がらなかった。ただし「古式泳法」は「日本泳法」とも言うという情報が手に入った。

次に、他のウェブを探してみる。「リンク集 - 埼玉県立川越高校水泳部」というところから、日本泳法の項目の「ご存知ですか？"日本泳法"」というウェブにアクセスしてみる。その中から『流派について興味のある方はこちらへ』という貼り付けがあるので、入ってみる。すると12の古式泳法の流派を見ることが出来た。発祥の地も分かるようになっている。静岡に1番近いのは東京で、「向井流」といい、江戸幕府の海軍にあたるものの水泳の流儀で、当時は主に敵前泳法を目的としていたというもの

だそうだ。

しかし、調べるべきなのは静岡の近くで発生した流派ではなく、静岡市の近隣で古式泳法を教えている場所だと気づき、やり直すことにした。

次に google の and 検索で「水泳教室」or 検索で「日本泳法・古式泳法」と入れ、静岡の近隣を探してみた。

検索した結果、86 件があがった。多すぎるため、絞込み検索で「静岡」を入れると 9 件が上がった。その中に「ORIONS の WWW database」に登録してあるホームページで

{art, 美術, 芸術, artistic, artistic} + {Japan, 日本, Nippon, Nihon, Japanese} + {type, 様式, 型式, 型, styling, style} にジャンル分けされている箇所がある。その中から古式泳法に触れている場所を探すと 「向井流水法研究会 公式ホームページ」が出てくる。しかしこのホームページでは教室の詳しい情報がないため、google の and 検索で「水泳教室・古式泳法・向井流」を入れてみる。すると 「Nektons Waterworld News #27」というサイトに飛べる。このサイトは水泳の同人誌 Nektons をネット上で公開しているものだという。連絡先、責任者の名前、住所、雑誌購入の際の為、口座番号も公開している。したがって、情報源としての評価は良いと考える。

回答

このホームページによると、向井流の水泳教室は川口（埼玉）にある。しかし水府流太田派という流派が、国立霞ヶ丘競技場プール（東京）で教えられていて、こちらの方が近いので、回答は「東京の国立霞ヶ丘競技場プールで水府流太田派の古式泳法を教えてくれる教室がある」となる。

感想

直接回答には関わらないが「ご存知ですか？ ”日本泳法”」のサイトは、どこの主催か分からなかった。評価の基準も、すべて同じような項目しか使えなかったのも、少し残念だ。次回からの課題にしたいと思う。

2

(設問 13)

問題

日韓併合時代に日本が行ったといわれている七奪とはどのようなことか？

Google の and 検索で「日韓併合・七奪」を検索する。すると 「帝国電網省」というサイトにアクセスできる。

このサイトは、歴史評論家の竹下義朗という人物のホームページである。歴史教育の問題点を検証するというテーマで、作られたホームページだ。

また、作成者の名前、連絡先、紹介文等が詳しく記載されている。利用者のアクセス数（823161人）も表記されていて、情報源の評価としては、信頼できると考える。

回答

このサイトによる説明では、明治43年の日韓併合から昭和20年に至る日本の朝鮮半島支配を、コリア人は「日帝36年支配」と称し、その先兵だった日本の朝鮮総督府を悪の権化のように嫌ったという。その理由が、朝鮮総督府が「日帝の七奪」（国王・主権・土地・資源・国語・人命・姓名の七つを奪ったと言う）を実行した張本人で、朝鮮半島を荒廃させ、コリア人を塗炭の苦しみに陥れた事になるからだそうだ。しかし実際はコリア人の主張とは異なり、この併合は両国の合意のもとで行われた。また当時の韓国には奪取するほどの資源もなかったのだという。

結局、七奪の回答とは（国王・主権・土地・資源・国語・人命・姓名の七つを奪った）日本の朝鮮総督府のことを指すと考える。

感想

当てはまっていたとはいえ、1つの情報源だけで回答を出してしまったのは、問題があったかもしれない。

参照したホームページの URL

(<http://curry.2ch.net/occult/kako/1018/10183/1018377017.html>)

(<http://www.asahi-net.or.jp/~TB6H-NSKW/48back.html>)

(<http://osaka.yomiuri.co.jp/omoshiro/010725.htm>)

(<http://www.kawataka.com/ja/others/links.htm>)

(<http://village.infoweb.ne.jp/~fwhx8118/santa/swim.htm>)

(<http://www.arimoto.com/sadako/mukai/>)

(http://www004.upp.so-net.ne.jp/teikoku-denmo/no_frame/index.html)

(<http://www.chichibu.ne.jp/~fujiwara/issue-27.html>)